倶楽部」長）の直三日、同JA本所

金額は、フルテリアが二億八百万円（前年実績一億九千万円）、フルテリア西郷が九千八

「ナビ」は

桑田会長が「売り上げが順調に推移しているのは努力の成果。安心、安全、高品質な農産物の販売拠点としてさらに努力してほしい」とあいさつし、同JAの坂根国之組合長は「少量でも多品目を店に並べ、消費者ニーズに応えることが地域の活性化につながる」と訴えた。

〇九年度は、フルテリアが二億二千万円、フルテリア西郷は一億三百万円の販売金額を目指す。

大会後、同所の太陽閣で二億円達成祝賀会を開き、新たな目標達成に向けて気勢を上げた。

販売成績の大きな伸びが報告された振興大会＝倉吉市のJA鳥取中央本所

に選ばれ、同観光特産村、座かわはいる。

ーしている。来は、エー（鳥作所（倉吉市）菊水フォージング（米子市）丸京製菓（同）米子製鋼（同）日新（境港市）こうほうえん（同）。

選出企業は概要集としてまとめ、経産省などのホームページで情報発信するほか、ジョブカフェやハローワーク、工業高校、高専などに配布する。

考案ゲームで 笑顔いっぱい

鳥取JC、若草学園園児と交流

鳥取青年会議所（水野由久理事長）は三日、幼児の発達を支援する通園施設・若草学園との交流事業を鳥取市湖山町西一丁目の湖山西公民体育館で行った。会員らは自ら考えた遊びを通して園児らと触れ合い、福祉の大切さをあらためて学んだ。

園児との交流は四十年以上続く事業。同会議所や鳥取大学障害児研究会のメンバー五十四人が参加した。

開会式で水野理事長は「交流を通じ、われわれも元気や福祉への気付きをいただいている。これからも事業を続けたい」とあいさつ。会員らは園児を毛布に乗せて走る競争や風船飛ばし、段ボール積みなどで一緒に遊び、会場には園児の笑顔があふれていた。

同学園の西根雅子園長は「普段できないダイナミックな遊びに園児たちも喜んでいる。遊びを通し、保護者も子どもへのかかわり方を感じてもらえる」と長年続く交流に感謝していた。

園児と段ボール積みで遊ぶ会員＝鳥取市の湖山西公民体育館

術者育成事業」を予定した実証講義得られた成果と成の今後などを考た。

は、本年度経済産小企業ものづくり成事業（高専等活企業人材育成事採択事業で、県産機構と国立米子工

である。

具体的には、両技術を網羅した五コースを設定し、米子高専と企業技術者の協力を得てカリキュラムと教材を開発した。昨年十月から今年一月まで土曜日に、延べ八十人の技術者へ講習を実施した。悪天候日があったにもかかわらず欠席はなく、受講生、派遣企業の意識の高さがうかがえた。

講義後実施したアンケ

えるべく熱意を持って取り組んでいた。

人材育成の方向性を示唆するような意見も寄せられている。

「社内で内容の充実を図ることが困難であり、高度技術者育成事業として継続的に実施していくことが大事である」「カリキュラムをニーズに合

路の基礎コース受講風景